

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4571900275		
法人名	有限会社一期一会		
事業所名	グループホーム吉祥		
所在地	宮崎県東諸県郡国富町大字竹田1614 (電話) 0985-75-9821		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年3月13日	評価確定日	平成21年4月24日

【情報提供票より】 (平成21年2月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成14年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	7 人	常勤6人, 非常勤1人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(63,000 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成21年2月22日現在)

利用者人数	7名	男性	4名	女性	3名	
要介護1	1	要介護2	3			
要介護3	2	要介護4	1			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	84歳	最低	79歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人俊生会田中外科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田園風景に囲まれた住宅街の一角にあり、民家改修型のため近隣の住宅と一体化している。法人理念に“愛・共生・貢献”を掲げ代表者や管理者の下、職員一体となって理念の実践に向けて1対1の個別援助を主体とした具体的なケアに熱心に取り組んでいる。男性の利用者が多いホームであるが、今までの生きざまを良く理解し、思いを共有して職員が寄り添っており、一人ひとりに暖かく、静かに、穏やかな時が流れている様子がうかがえる。サービス向上や職員の育成に積極的であり、研修への参加や発表の機会を作ることはもとより日々のケアの中で研さんし、実践する取り組みにも積極的である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	①家族等への報告は便りの発行回数を増やし、また、訪問や電話で状況を報告している。②家族等意見の反映は「よろず相談ノート」にした。家族が思いを表出できる声かけ等の研さんをしている。③なじみながらのサービス利用は開始前に見学等を実施し、安心してなじめるようにしている。④介護計画の見直しは適切にされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で話し合いを持ち、それをとりまとめる形で自己評価表を作成している。話し合いの過程が、日々のケアの振り返り、見直しの機会になっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は町内4ホームが合同で年4回開催している。4ホームの代表者、民生委員、区長、家族の代表、行政が出席して各ホームの現状や取り組みの様子、問題点等を報告し、情報交換するとともに活発な意見交換が行われており、地域が一体となって地域福祉に取り組んでいく姿勢がある。ただ、当グループホーム単独での運営推進会議は開催されていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口については玄関に掲示し、また、重要事項説明書に明記されており、よろず相談ノートも置かれている。ホーム便りで暮らしぶりを発信するとともに、来訪の際や電話の時に家族が気軽に意見や思い、不安を表出できるような声かけ等に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入して祭り等の行事や、町が主催する生き生きサロンに参加している。近隣を散歩することが多く、顔なじみになり利用者も個人名で認識される等の関係ができています。回覧板を利用してホーム便りを回覧し、ホームの行事等を知らせている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念“愛・共生・貢献”を基にホーム独自の「利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けること」を目標としたケアの具体的なイメージを持った理念が作りあげられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送り時に、理念に沿ったケアについて話し合いが行われ、理念の共有がなされている。日々のケアの中で、理念達成に向けて熱心に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地区行事の参加や、回覧板でホームの行事等を近隣住民へ発信している。町が主催する生き生きサロンに参加し、近隣の高齢者と交流の機会を持っている。散歩を日課としている利用者が多く、近隣とも顔なじみになり、利用者も個人名で認識され見守りも依頼できるなどの関係ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は全職員で話し合いを重ね作成している。外部評価の結果については、話し合いを持ち、常にそれを意識して日々のケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内4か所のグループホーム合同で年4回開催し、情報交換や意見交換が活発に行われており、その結果をサービス向上に生かしているが、当ホーム単独での会議は開催されていない。	○	合同での開催で気づきも多く成果が上がっているが、単独で開催し当ホームを取り巻く人々から多くの率直な意見を引き出したり、外部評価の結果を報告する等の取り組みも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町が月1回地域ケア会議を開催しており情報交換が行われている。また、法人代表者や管理者は町との関係作りを積極的に行い、事業の推進等について町の協力がもらえる体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年3回ホーム便りを発行し、家族等へホームでの状況を知らせている。また、来訪時や電話の際に個別に報告している。金銭管理については、来訪時に帳簿や領収書等を確認してサインをもらう等適切な処理がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口を掲示したり、重要事項説明書に明記し知らせるとともに、「よろず相談ノート」を置いている。来訪時に声かけして気軽に話してもらえる雰囲気作りができるよう全職員で取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限度に抑えている。交代があった場合は勤務体制を配慮し、夜間は2人体制にする等柔軟な対応をして、利用者にはダメージを与えない取り組みをしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には職員を積極的に参加させている。受講後はミーティングや申し送り時に時間をとり、復命を行い他の職員も共有できるようにしている。事例発表等への取り組みにも力を入れており、日々の仕事の中で問題意識が持てるよう、代表者や管理者が支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年4回の運営推進会議の中で情報交換や勉強会、互いの訪問を行い、サービス向上への取り組みを行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族に見学してもらったり、入院中であれば面会に行き、入居前に顔なじみの関係になれるよう取り組んでいる。入居後は家族と密に連絡を取り合い安心感も持って早くなじんでもらえるような取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個別援助に力を入れており、職員がなるべく一緒に時間を共有して昔話を聞いたり、散歩したり、手仕事しながら共に支え合う関係作りが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人個人が思いを表出できるよう職員と1対1の場をつくり、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族や関係者から情報が得られるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の記録（SOAP：看護記録の方法）を基に、利用者の状況や思いを全職員が共有して、家族の意向等も確認のうえ、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6か月ごとに見直しを行っている。日々の記録やミーティングで職員の意見を把握し、状況の変化に応じ現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個人援助計画が立てられ、墓参り、自宅訪問等利用者が希望する外出援助が行われている。社会福祉協議会の依頼で各地域へ職員が交代で出向き、グループホームの話をする取り組みを年間10数回実施している。「介護相談の案内」の看板があり、地域の福祉の拠点として取り組む姿勢もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者ごとの掛かりつけ医と連携を取り、適切な医療が受けられる支援をしている。また、協力医により定期的な往診があり、昼夜問わず適切な医療を受けられる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期について、本人や家族と話し合い看取りのケアについての同意書を取っている。重度化した場合の対応は、協力医療機関や職員と話し合い方針の共有ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応が行われている。個人情報の取り扱いも適切である。ただ、利用者の希望ではあるが常時開け放たれた状態の居室が数か所あった。	○	利用者の希望ではあるが、そのままの状態です満足することなく職員で話し合いを持ち、一人ひとりの利用者のプライバシーが確保できる工夫への取り組みを望みたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1対1の個人の意向に沿った援助をホームの目標としており、一人ひとりのその日の状況に合わせて散歩や買い物に職員が寄り添い支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、片づけ等を利用者と一緒に行い、一人ひとりの利用者にあったおのおのの場所で楽しく食卓を囲んでいる。ただ、職員は弁当持参で同じ物を食べる状況ではない。	○	利用者と職員が同じ物を食べながら食卓を囲むことで、利用者の体調や好みの把握につながります。職員に同じ食事が提供され、楽しみを共有される事を望みたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、夕方に近い時間帯に入浴支援が行われている。日数や時間帯については利用者の希望に沿う体制はある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	隣接する畑で農作業をし、野菜等を収穫したり、散歩中に草花を採取し居間に飾ったりしている。日々の暮らしの中で張り合いや喜びが感じられるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を日課にしている利用者が多く、職員は付き添ったり見守りで支援している。また、買い物、墓参り、自宅訪問など希望により外出することを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けないケアを実施している。徘徊等の懸念される方についても、見守りや声かけで自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の協力の下、訓練を実施している。また、消火器の使い方等の具体的な訓練も、ほぼ全職員が受講済みである。近隣の住民や地域の協力も得られる体制ができています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士が作成しており、栄養バランスのとれた食事が提供されている。体調に合わせて量の調整を行うなど、適切な支援がされている。食事量、水分量についてはチェック表で確認されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を利用したのホームで、天井も高く風通しや採光も豊かで、近所の犬の鳴き声や、子供達の声も聞こえてきて、自分の家で生活しているような環境である。大画面テレビのある居間で、それぞれが畳に横になったり、ソファでうとうとしたり、片隅で職員と話し込んだりと心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた物や好みの物を持ち込み、それぞれが居心地よく過ごせる居室になっている。		

※  は、重点項目。